

「Society 5.0 時代」

～テストの方法も変わってくるかもしれません！！～

日本が目指している未来社会が「Society5.0」です。「Society5.0」とは、サイバー空間とフィジカル空間が高度に融合したシステムによって世の中が構成される……とされていますが、なかなか想像し難いものがあります。「Society 5.0」については、内閣府のHP(以下、URL 及び QR コード)で紹介されていますのでぜひ参照ください。



https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/

そういった中、国では、全国的な学力調査に関する専門家会議から、「学力調査方法の不断の見直し」について提言をうけ、毎年4月に中学3年生、小学6年生を対象に実施している全国学力・学習状況調査へのCBT導入について研究を進めているところです。

そして、なんと浅江中学校は、その調査研究の実証研究校になっています。

先日、2年生が、学級活動の時間を利用して、CBT 実施に向けた操作シミュレーションと、テスト実施シミュレーションを行いました。シミュレーション後は、タブレットの操作性や問題のわかりやすさ等について、個々が感じたことをアンケートに記入しました。

浅江中の生徒は、ほぼ毎日、授業等でタブレットを活用しているため、いずれのシミュレーションも、そつなくこなしていました。あらためて、タブレット端末の活用について、浅江中の子どもたちは、かなり進んでいると実感した瞬間でした。

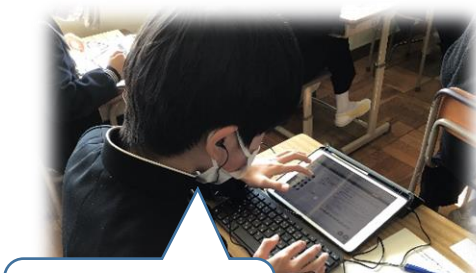
CBTとは、「Computer Based Testing」の略称で、タブレット端末等で出題・解答するテスト方式です。民間の資格検定試験で採用が進んでいるほか、就職するときの適性テスト試験などでも活用されています。タブレット端末等を活用するため、テキストや写真だけではなく、音声や映像も利用することができます。質問に対する解答を音声入力したり、動画を見て解答したりと、ペーパーテストではできなかった新たな方法での出題、解答が可能です。

シミュレーション終了後、生徒の中から無作為に選ばれた10名と、2年生の先生2名が、オンラインでシミュレーション主催者からのヒアリングを受けました。

<CBT シミュレーションの様子(2年生)>



キーボードを駆使した文字入力で解答しています。



イヤホンで音声を聞きながら解答しています。



ローマ字入力にも慣れ、ブラインドタッチをする子どもたちも……。



実際にCBTをやってみて、子どもたち目線、教員目線の両面からの課題をあげ出すことができ、有意義な実証研究となりました。



浅江中では、これからも一人一台タブレットの活用を積極的に進め、これからの社会を創り出す子どもたちに必要な資質・能力の育成につとめます。